

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0770401768		
法人名	社会福祉法人 養生会		
事業所名	グループホームかしま		
所在地	福島県いわき市鹿島町下蔵持字里屋13-1		
自己評価作成日	平成26年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年2月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・楽しい食事をおいしくいただき、心も体も健康を保てるように、食事づくりには力を入れている。職員の中には調理師の資格を持っているものが数名おり、献立もみんなで考えて作成し買い物へも自ら行っている。  
 ・地域に住むボランティアさんの協力や民生委員さん区長さんなど、地域を支えてくださっている方々にも、訪問をいただき、意見などをいただいている。  
 ・同一敷地内には、同法人の施設や医療法人の病院、歯科などがあり医療連携や、緊急時の協力をいただいている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1. 事業所の同敷地内に法人施設の特別養護老人ホームがあり、地域福祉祭り、子ども会、託児所、小・中学生との交流や法人行事の協力など地域との関わりを大切にし、地域との協力と連携を密にしながら地域交流を図っている。  
 2. 同敷地内に病院が隣接されているため、医療連携が密に図られ安心して受診できる医療体制がある。  
 3. 利用者の嗜好を日常生活の中で把握し、栄養バランスとバラエティに富んだ食事提供に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	始業時には職員心得を全員で唱和し、事業所の理念を日々の仕事にいかせるようしている。地域の一員として、利用者が、自然体でかかわっていけるよう支援している。	事業所理念を掲示し、法人の指針である「職員行動指針」手帳を全職員に配布し、職員心得を唱和し、理念を共有しながら実践につなげている。また、行動指針の中から年間目標を2項目掲げ、全職員でサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティア、子供みこしの来荘、柏餅づくり、夏祭り、小学生との交流会、地域の子供さんたちとの餅つき、民生員さんとの関わり、一人暮らしの高齢者との交流を図っている。	法人・事業所が、地域との関わりを大切にし、地域ボランティアや夏祭り、地区子供会や保育所、小・中学校等の交流を積極的に推進している。また、地域行事と法人行事開催時に連携し、地域に根付いた交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の認知症の研修会において、在宅におられる方の相談役を引き受けたり、一人暮らしの方をお招きし、行事を一緒に行う機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	今年度から、地域の区長さんにも参加していただいている。2か月に1度会議を開催し、概ね皆様に出席していただき、活発な意見を頂戴している。(出席者～地区民生委員、区長、家族代表、包括支援センター職員)	運営推進会議は定期的開催されている。会議では利用者状況や行事などの報告、運営課題など意見をもらい、それを運営に活かすよう努めている。また、昨年の課題であった、地域代表委員の参加について改善を図った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は会議の開催案内や議事録を毎回直接包括支援センターへ持参している。また、包括支援センターで実施されている研修会に参加し在宅で支えているご家族へご協力できればと考えている。	管理者は、事業所の現状や利用者の暮らしぶりなどの報告と人材確保の課題などについて、市担当者や情報交換しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員が身体拘束についての業務研修あるいは、外部研修を受けたものが復命報告を行っている。普段から、職員同士が指摘し合える環境を作り、身体拘束への理解を深めている。	全職員が業務研修で身体拘束・虐待防止等研修を受講し、各種会議やミーティング、日常業務の中で確認し、理解を深めながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務研修、市内外の研修を通し、ミーティングや研修会の折に高齢者虐待防止関連法について全職員へ周知し理解を得ながら、浸透・遵守がされるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を必要とされる方が、いらっしやらないためどうしても具体的なことには疎いと感じているが、業務研修などではこのような制度もあることを勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ケアに関する考え方、実際の取り組みなどをできる限り丁寧にわかりやすく説明する努力をしている。利用されるご家族からも、家族の思いなどをお聞きしている。利用者の状態変化によりやむを得ない契約解除に至る場合もあることを、お話しさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市からの介護相談員の派遣や週3回ボランティアの方とのかかわり、あるいは定期的に訪れるご家族様との関わり、第三者委員来訪、推進会のメンバーなど、皆様とのかかわりの中で自由な意見交換が見られ、その中から吸い上げ運営に役立てている。	運営推進会議に家族代表が参加し、年2回家族招待食事を開催し、意見を聞く機会を設けている。また、家族面会時や日頃の生活の中で意見、希望を把握するよう努め、出された意見などを運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月1回の職員会議や業務研修、個人評価による面談、あるいは副主任からの報告を通じ、職員が何を求めているかをキャッチし、職員全員で取り組めるようなコミュニケーションを持つことで、反映させている。	職員会議や毎日のミーティング、日常業務の中で職員の意見や提案を把握し、法人と相談、検討しながら運営に反映している。また、管理者が年3回程度、個別面談を実施し意見などを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時職員から、仕事に対する取り組みや思いを聞いている。副主任へも職員の不満がないかなど報告していただき、働く環境を整えてきている。また、賞与などへも反映できるように法人へお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の業務研修や法人内外の研修を受ける機会を設けたり、ミーティングでは一人一人の仕事を通しての体験談を話していただき、職員が考える機会を通し、知識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム協議会に所属し、いわき市で開催されるスタッフ研修では、学習の機会や知識の習得、意見の交換など交流を深め、共に学び、質の向上を目指している。また、包括支援センター主催の研修会にも参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴や入所に至るまでの経緯を職員全員が共有する。本人が早く馴染めるように声掛け、気配りができるような体制を整え、本人の思いを受け止められるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	長い間悩んだ末の決断を大事にし、契約時にも家庭での生活ぶりをお聞きしている。入所後も利用者さんの変化や、家族の思いに目を向け話し合いの出来る関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にはまず、入所後どのような生活を望んでいるかをご家族、あるいは本人よりお聞きしている。ご本人の望まれる生活にできるだけより添えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に寄り添う気持ちを持ちながら生活支援をしている。その中で利用者様より教えていただけることを大事にしながら、自分たちの仕事に役立たせている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族の面会や、行事参加の機会には、利用者様、ご家族、職員とともに過ごす共有、情報交換している。そして、共に利用者様を支えながら、確かめ合いながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が育んできた方たちとのなじみの関係が途絶えないように、面会などへは積極的に来訪してくださるようお話している。同一施設や、病院等へもお見舞いや訪問などを行っている。	利用者がこれまで大切にしてきた、顔なじみの理美容店や友人・知人、家族との関係が途切れないよう、面会や年賀状により、関係が継続できるよう支援している。また、季節に応じたドライブや文化祭、ハワイアンズ招待などに外出し、家族の協力で墓参りや親戚訪問を行えるよう支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世代の相違、生活環境の違いはあるが、利用者様を巻き込みながら、コミュニケーションを図っている。利用者様同士ともに支えあい、お互いの良さを認め合えるような関係づくりができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度になった方は、同法人の特養ホームへ移動していただくケースが多く、利用者様との関係は断ち切ることなく継続、ご家族様や特養相談員との情報共有に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でひとりひとりの生活パターンを確認しつつ、利用者様がどうされたいかをキャッチできるようコミュニケーションに力をいれている。また、困難な方へは個別対応も心掛けている。	日頃の生活の中で、利用者の言動や行動から本人の希望や意向を見逃さないよう把握に努めている。また、意思表示の困難な方については、家族から情報を得ながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションや、利用者様同士の会話の中から、面会に訪問される家族との会話や聞き取りなど、プライバシーに配慮しながら情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の永年の生活習慣や生活を参考にしながら、一人一人の今までの生活リズムを尊重したうえで、認知症になったことで本人の心身の状況に変化が生じているところを理解しながら、日々の生活支援に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、本人の思いをくみ取りながら、毎日のミーティングの中でアセスメントやモニタリングを行っている。日々変化があるため大きな変更時は、ご家族や主治医へ相談し、意見などをうかがいながら、介護計画へ反映させている。	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。利用者担当制を執り、1ヶ月毎に計画に基づくサービス状況の評価をまとめ、毎日のミーティングでアセスメントやモニタリングを行いながら介護計画に反映している。また、状態変化時は、医師、家族など関係者が相談し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が情報を共有できるよう個別記録と日誌が連動しており、常に利用者の状況が把握できるようになっている。毎日のミーティングでの話し合いを基に介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に提供しなければならないサービスについては実現できるように努めている。職員がいろいろなことにとらわれすぎないように、認知症を理解していただきながら、利用者様の満足に答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティアの継続的な受け入れ、推進委員の方との情報交換、母体と合同の地域行動参加、近隣小学校、保育所との交流を通し、一人一人が生活を楽しむ機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制での医療連携を協力病院と結んでいる。月2回の訪問診療や健康チェック、母体師長による巡回等により利用者の状況をいち早くキャッチし、主治医と連携を取りながら対応している。	かかりつけ医を事業所指定の医院としているが、事業所に併設されている、協力病院による定期的な往診と、看護師による健康管理がなされ、適切な医療が受けられる体制が整備されている。また、24時間オンコール体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回ホームでのバイタルや、申し送りの様子をふまえ、気になる方は訪問看護師へ様子を伝えている。その都度主治医の指示を受けながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と共に担当医からの説明を受け、情報提供等を行っている。入院中は職員が毎日面会に伺い、本人の状態観察や不安を取り除くとともに、退院へ向けてのお話を伺う等の連携もとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に関する指針をもとに、本人の状態変化に素早く対応。家族、協力医、看護師、管理者がその都度話し合いをもち、本人や家族の思いを優先にしながら対応方針につなげている。	重度化した場合における指針について、利用開始時に説明を行い「医療についての意思確認書」で確認している。状態が変化した場合は、迅速に家族と話し合い、家族の思いを優先しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所轄の消防署、グループホーム協議会、母体法人の協力を得て、救急手当や蘇生術AEDの使用方法的研修を実施している。法人としてのマニュアルがあり、周知徹底に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設法人合同の消防訓練、その他の災害対策に向けての訓練や防災委員会への参加、月1回はホーム独自での訓練と利用者への啓蒙を行っている。今回の震災の訓練から、かしま荘との日々の連絡体制の強化を進め実施している。	毎月、事業所独自の防災訓練を実施の他、併設されている施設との合同防災訓練を消防署や地域住民の協力を得て、年1回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング、業務研修、個人面談を通し、職員に対し利用者様への言葉のかけ方や、接し方などの話をさせていただき、気持ちの良い介護の提供に取り組んでいる。	管理者は、ミーティングや研修会、個別面談などを通して、入浴や排泄時などの言葉かけや誘導のあり方について、誇りやプライバシーを損ねない対応をするよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のかかわりの中で、利用者様が、自由に意見をのべられるような場面をできるだけ作っている。それを実現できる場面を施設内外で取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活リズムを理解し、無理強いせず、その方がどうされたいかを優先に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の生活習慣や、好みを知り、見繕いなど本人の意向が反映できるように支援、行きつけの美容院や理容への継続も家族へお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	台所仕事の下ごしらえをお願いしたり、プランターなどで採れる野菜を収穫したりし、食事の際のコミュニケーションに役立たせている。また、ボランティアの方、ご家族からいただく野菜などみなさんに見ていただき、季節感を味わっていただいている。	栄養士による栄養バランスの摂れた献立と、職員の特技を生かしたバラエティに富んだ、食事の提供に努めている。食材の購入や野菜の下処理や下膳など、利用者職員が一緒に行っている。また、差し入れられた野菜なども献立に採り入れたり、誕生会では好物の出前を取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を一人一人チェック表に記録し、確認している。また、嗜好や習慣へも配慮しながら確認している。また、毎月体重測定をし健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導を行い各々の能力に合わせた支援を行っている。就寝前の入れ歯の管理や、手入れも習慣や、意向をふまえて、無理のないように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄チェック表を使用し、時間帯、習慣、排泄間隔を把握。さりげないトイレへの声掛け、誘導、介助を行っている。現在、9名の方、日中はトイレ使用。夜間帯は本人の状態に合わせた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄をして頂くよう、排泄チェック表により排泄パターンなどを把握し、利用者の羞恥心に配慮した、さり気ない声かけでトイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食材と献立の関係、乳製品の摂取、水分などいろいろな取り組みを行っている。自然排便が理想ではあるが、半数の方は、薬に依存している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の意向を伺い、入浴をお誘いしている。拒否された方にも、午前や午後、あるいは声掛けする職員を変えてみたりしながら、入浴を試みている。お湯の温度や入浴の仕方にも配慮しながら、実施している。	利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。また、入浴を拒んだ場合は、時間や職員を変えるなどして、出来るだけ入浴して頂くよう努めている。また、浴室の湯温や入浴方法に配慮したり、安心して入浴が出来るよう、浴室の改修を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中は無理のない活動を実施。生活リズムを作り、入眠できるような働きかけを行っている。夜間眠れない方へは、一緒に寄り添い、声をかけたり、温かい飲み物を提供したり、スキップを図り、不安を取り除く配慮をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り、内容の把握、変更などの確認をスムーズに行い、変更時には職員間で往診室との連携を図れるようにしている。また、服薬が、確実にできるように、利用者様によっては介助をしたり、服薬後の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に得意だったことなどをお聞きし、生活の中に生かせるようにしている。例えば、調理の下ごしらえ、縫い物、洗濯物たたみ、本の朗読など日常的に場面を設定し、行っていただいている。また、施設内外での行事にも参加していただき、気分転換を図る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節、天気、その日の体調や希望に応じて心身の活性化が図れるように、散歩、行事、ドライブなどの支援を行っている。定期的に訪れるボランティアさんに声掛けし、付き添いなどのお手伝いをお願いしている。	天候や体調などに合わせた、散歩やドライブなどの支援をしている。また、ボランティアの協力による外出支援もしている。さらに、前庭にテーブルを出して、ご飯を食べたりお茶を飲んで楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は原則としてお受けしていない。外出や行事などで、お金を使うときにはお小遣いとして施設より渡している。また、お金を所持していないと不穩になる方に関しては、施設とご家族で話し合いをし、確認の上、手元においていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解を得て、電話などでの会話を行っていただいている。手紙を書く機会を設けてはいるが、年賀状などは本人に書いていただきご家族へ送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間と居室は、延長線上にあり、ゆったりとしている。いつでもプライベートなところへの行き来ができています。天井が高く明るく広い空間を気持ちよく過ごしていただいている。季節によっては、天井を開けたり、よしずを使ったりし季節感を味わっていただいている。	共用空間はゆったりとした広さがあり、温度や湿度の管理がされている。また、テーブルの配置などは、利用者が安全に安心して生活ができるよう配慮している。さらに、季節に応じた手作りの飾り付けなどがされており、季節感が味わえる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いにお話のできる距離を大事にしながら、同じ時間を共有したい気持ちを尊重している。ほとんどの時間フロア、テレビの前での生活が多く2,3人の方は、居室で一人でいる時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室は、一人一人の個性を尊重して、馴染みのものやその方にとっての必需品を置いていただいている。入所時ご家族へのお話の中で、いつも使用しているもの、本人があると安心できるものをお持ちいただき、配置を工夫しながら使用していただいている。	家族には出来るだけ、これまで使用していた物や、あると落ち着く物を持参して頂くようお願いしている。また、東日本大震災を踏まえて、タンスの位置にも安全な配慮がなされ、安心して自分らしい生活ができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々、職員のみまもりのなか、一人一人が持っている能力を確認しながら、危険を回避できる支援を行っている。本人の残存能力が継続できるように、住みよい環境を提供している。		